

エゴマとその別名の全国的分布

本 間 伸 夫

エゴマの食文化は縄文時代に遡るという。かつては、日本全国で栽培され、食用、灯火用、工芸用に尊重されたが、近年では殆ど忘れられようとしている。長い歴史を有するため、その呼び名が多種多様となっている。食文化の地域性を検討する手段として、別名の分布を調査した結果を報告する。

方 法

聞き書⁽¹⁾、そのCD-ROM版及び関連する資料^(2,3,4,5,6,7)から、エゴマ食用の記載のあった地域を地図上にスポットし、そのポイントの分布から地域区分を試みた。データの年代は1930年前後が中心となっている。

結果及び考察

1. エゴマを食用とする地域の分布

図1にエゴマについて記載のあった地域を示したが、主として東日本に分布することが認められる。食用とするものの最南端が奈良県・十津川地域である。東京・新宿での記述では、エゴマを購入し播りゴマ風に食べている。

★印は食用外のもので、奈良県吉野川流域、高知県香長平

野、宮崎県宮崎平野であって、エゴマは油紙の製造に用いられている。このうち、吉野川流域は番傘用の油紙であるので純粋に副業であるが、高知と宮崎での油紙障子は自家の施設園芸用のものである。古い時代の記録を紹介したものが▲印である。

2. エゴマ及びその別名の分布

エゴマは本来の名称はエ(荏)であるが、遅れて伝播してきたが、用途が類似しているゴマ(胡麻)と区別するためにエゴマ(荏胡麻)となったと言われている。現在ではエゴマが共通語となっている。また、別系統にジュウネン(柔荏)の名称があるが、ゴマよりも表皮が柔らかいためという説明がなされている。

図2-1、2、3に群別の名称の分布を示し、図2-3にエゴマの名称分布から引くことができる地域区分のラインを付け加えた。

図2-1の「エゴマのみ」はエゴマ以外の名称が認められない場合であり、主に日本の南西側に分布している。

図2-1の「ジュウネン」群は主に東北地方の太平洋側及び栃木県北部に分布している。この群は、宮城県南部と福島県ではジュウネン、宮城県北部でズネ、岩手県でジュウネ、

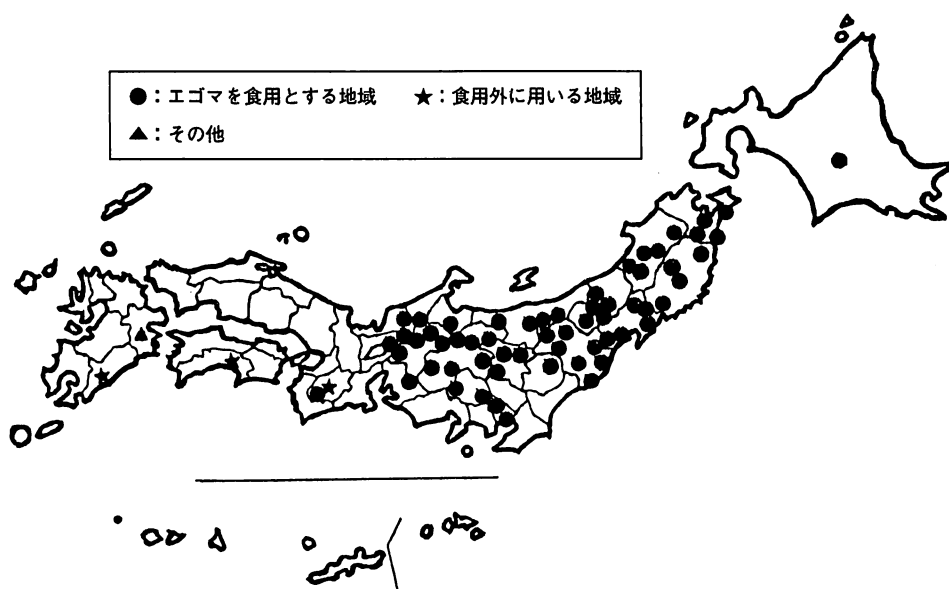


図1 エゴマ記述地域の分布

青森県でジュネというように地域によって微妙の変化が認められる。

図2-2は「エ」群の名称でまとめたものを示した。エとエイは荏であって最も原形に近いものであり、イクサ、イグサ、エグサは荏草、アブラエは油荏、エゴまたはエコは荏子の意味であると考えられる。大分県の「豊後検地」(1593)には荏子と記してある⁽⁸⁾。しかし、奈良県のイカの意味は不明である。

図2-3は主として「・・・アブラ」の名称でまとめたものであるが、ジュウネアブラはジュウネン群において示してあ

る。このジュウネアブラも加えて、殆どが秋田県と山形県に分布しているので、東北地方の日本海側に「・・・アブラ」群が存在することになる。

その他の名称として、シロジソ(白蘇)とオオエノミが紹介⁽⁹⁾されているが、聞き書きなどではその存在を認めることができなかった。

3. エゴマの名称から地域区分

図2-3に示すように、A・Cを結ぶライン以北においてエゴマ栽培が顕著であるのは、冬作物ナタネが寒冷地に不向

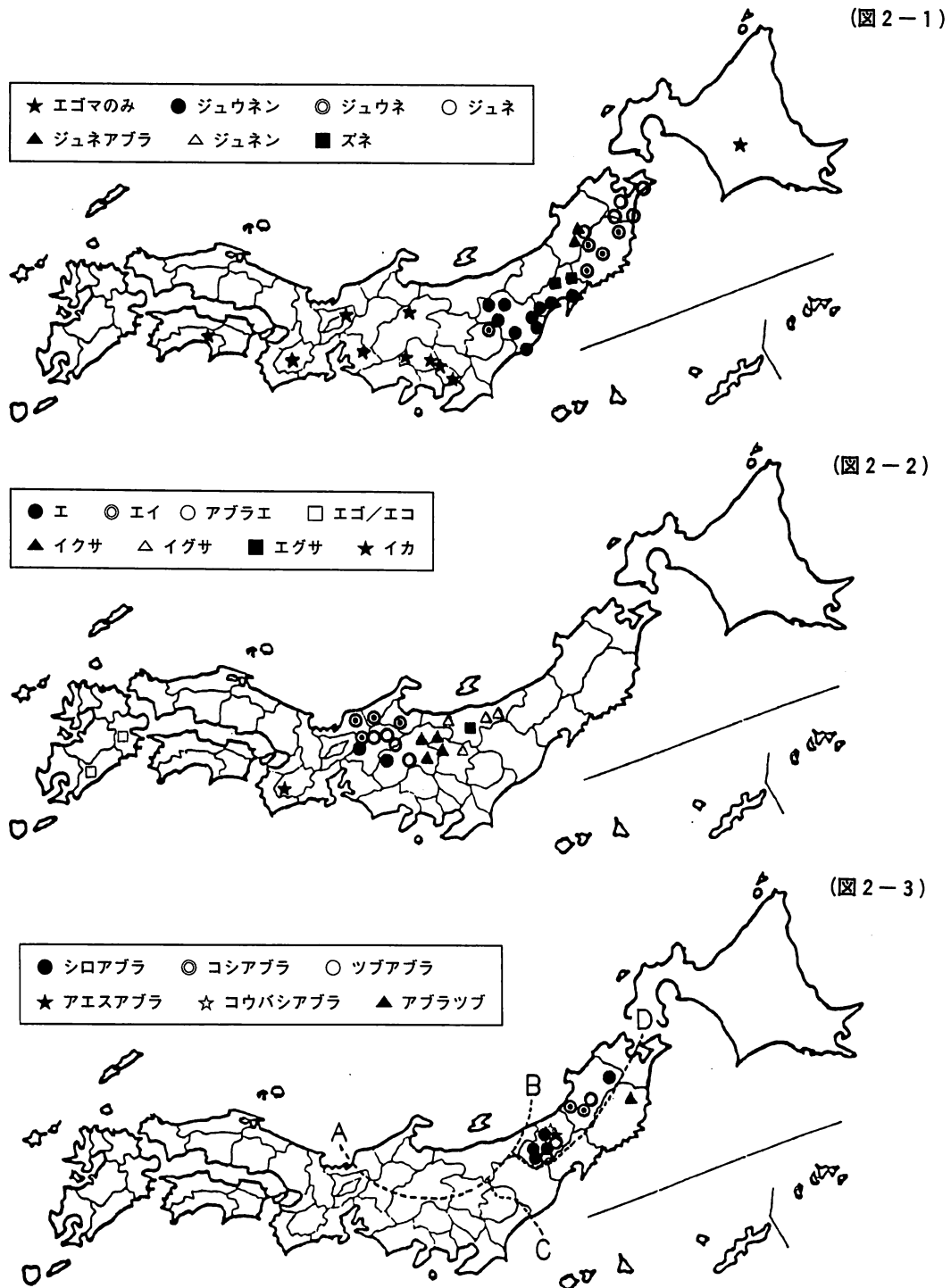


図2 エゴマの名称の分布と地域区分

きのため、夏作物エゴマと入れ替わらなかったためと考えられる。このA・Cライン近似のラインによって日本の東北と西南を分けることは農作物栽培関連においてしばしば認められる。食文化に関する例としては、端午の節句関連のラインがある⁽¹⁰⁾。

B・Dラインに囲まれた「・・アブラ」地域は東北日本海側であり、C・Dに囲まれた「ジュウネン」地域は東北太平洋側であるので、B・Cライン以北はほぼ東北地方と合致する。

A・Bラインで囲まれた「エ」地域には北陸の他、群馬・長野・岐阜3県の北部が含まれている。

A・Cライン以西にはエゴマ食用の地域は少ないが、名称からすると「エゴマ」地域といえる。エゴマは荳の胡麻であるので、九州のエゴ・エコを含めて、「エ」地域に属することになる。

B・Cラインは大きく、以西は「エ」地域、以東は「ジュウネン・アブラ」地域に分けられるので、比較的重要なラインといえる。食文化から日本を東西に分けるラインは、このB・Cライン付近の西側にしばしば存在することが認められている⁽¹¹⁾。

要 約

エゴマの別称の分布から、日本の食文化の地域区分を試み、東北地方南側で区切るラインによって、南西側に「エ」群、東北側に「ジュウネン・アブラ」群の名称が存在していることを認めた。

文 献

- (1) 編集委員会：聞き書・日本の食生活全集50巻、農文協 (1984-93)
- (2) にいがたの味―郷土食・行事食編、p93、新潟県農業改良協会 (1981)
- (3) にいがたの味―米と料理編、p61、新潟県農業改良協会 (1988)
- (4) 新潟県食生活改善推進員協議会：にいがたの伝統料理、p7, 87、同推進委員会 (1990)
- (5) 山形県生活改善グループ連絡研究会：ふるさとの味―山形の郷土料理、p42, 218 (1982)
- (6) 山形県食生活改善推進協議会：やまがた郷土料理、p62, 132 (1986)
- (7) 栗島文子他：富山のふるさと料理・秋冬編、p38(1979)
- (8) 編集委員会：聞き書・大分の食事、農文協、p343(1992)
- (9) 古沢典夫：エゴマ、p22、創森社 (2000)
- (10) 本間伸夫、石原和夫：県立新潟女子短大紀要、No.32, p87 (1995)
- (11) 本間伸夫他：県立新潟女子短大紀要、No.28, 29, 31, 32,33 (1991-96)